



157

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

2020 1/1

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
 狭山研修センター：〒350-1315 埼玉県狭山市北入曽695-1 TEL.04-2968-4721 FAX.04-2950-7706
 滝沢研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡滝沢村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

2面・3面 巡回公演だより／園からの声／演育ワークショップ開催
 4面 日本芸術文化振興会助成事業／制作だより／上田順一先生を偲んで ほか

http://www.suginoko.org/

E-mail: support@suginoko.org

東京オリンピックと 劇団すぎのこ

理事長 大場 隆志

新年、明けましておめでとうございます。
 皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
 また、皆様におかれまして本年も素敵な一年となりますよう心か

らお祈り申し上げます。
 私が理事長に就任して三回目の新しい年を迎えることができますことは、ひとえに皆様のご愛顧とご支援によるものと深く感謝しております。
 昨年の目標として掲げておりま



演育／埼玉県狭山市・ソプラティコ狭山フットサルコート場に於いて

した「演育」は、教育目的や教育方法を検討する演育会議を定期的に開催し、教育内容の構築を進めてまいりました。後ほど「演育」の一部をご紹介します。

今年二〇二〇年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催される記念すべき年です。東京での開催は一九六四年（昭和三十九年）の大会以来五十六年ぶり二回目で、アジア初の同一都市による複数回開催となります。

実は劇団すぎのこが誕生したのも一九六四年九月八日で、今年で五十六年を迎えます。

一九六四年の東京オリンピックは、日本の戦後復興と社会インフラの飛躍的な向上をもたらしました。

日本が先進国への仲間入りをアピールしたかのように、すぎのこ芸術文化振興会の歴史においても、劇団すぎのこが人形劇団として、全国にナマの舞台の感動を届けようと旗揚げしました。

今年行われる二〇二〇東京オリンピックは、すでに成熟期を迎えている日本が、どのようなことを世界にアピールするのかわという課題に取り組んでいるように、すぎのこ芸術文化振興会も人形劇だけではなく、新たな価値の創造という課題に取り組んでおります。

そう考えると、東京オリンピックとすぎのこ芸術文化振興会は、何か深い縁を感じることができそうです。

フランスの哲学者シモーヌ・ペイユはこんな言葉を残しています。「与えるというものではないが、

人にぜひ渡しておかねばならぬ、大切な預かりものが自分の内にある」

劇団すぎのこ創立者故小澤明氏は、当時のテレビ人形劇の創られ方に疑問を感じ「どんな離島山間僻地小規模施設の子ども達にもナマの舞台の感動を届けよう」と旗揚げしました。そして元理事長の小澤幸雄氏が全国幼稚園保育園巡回公演方式の基礎を築いて、今日まで歩んでまいりました。

この大切な預かりものを、これから、どのようにして、さらに価値のあるものとして、後世に残していくのか。

日本の将来において、今の子どもたちの六十五パーセントは、大卒卒業時に今は存在していない職業に就くことになると言われております。また今後一〇～二〇年で、現在働いている人の仕事の約四十七パーセントの仕事が自動化されると言われております。

将来の変化を予測することが困難な時代を生きる子どもたちに対しては、社会の変化に受け身で対処するのではなく、自ら課題を発見し、他者と協働してその解決を図り、新しい価値を創造する力を育成することが喫緊の課題であると言われている。そのためには、子どもたちに「何を教えるか」だけでなく、子どもたちが「どのように学ぶか」という視点が重要だとしています。

そう考えると、すぎのこ芸術文化振興会が今取り組んでいる「演育」は、まさにこれから求められる教育であると言えます。

それは私たち大人も同じで、私たち自身の価値を上げ、社会の問

題を解決するような新しいビジネスを創造し、世界をリードするような新しい産業を生み出していくことが日本をさらに飛躍させることになるでしょう。

「高齢化を価値に変える」「日本らしさで米中と違う産業」「モノづくりから日本らしいサービスへ」のようなことが、ピンチをチャンスに変え、日本が再び世界をリードする経済大国になるきっかけになると思います。

これからも、私たち、すぎのこ芸術文化振興会は、子どもたちの未来を育てる公益財団法人として、邁進しつづけてまいりますので、本年もこれまで同様のご指導、ご鞭撻を賜りますようしくお願い申し上げます。

■演育ワークショップ オノマとピア

育成する力 創造力

所要時間 1ターンの3～5分

人数 何人でも

やってみよう

お友達と輪になって、色々なオノマトペをしながら、歩いてみよう。

（とぼとぼ、ぐでんぐでん、ぶらぶら、ふらふら、ぶらぶらどしどし、とつとつ、とろとろ、おろおろ、せかせか、せつせ、ひらひら、のしのし、つかつかうきうき、ずしんずしん、ひたひた、よたよた、てくてく、すたすた、そろりそろり…）

ポイント

- ・聴いて感じたものを身体で表す。上手下手お手本はない。
- ・全員がゲーム感覚で楽しむ。

巡回公演だより

このつぎなあに**班**

榎本 均



年が明けて、今年も子どもたちとどんな出逢いがあるだろうか、心待ちにしている。

来年の事を言うと、鬼が笑うというが、過ぎた事の想いは、きりめきの中ではつきりと残る。

昨年、秋、九州、島原半島。小学校に併設する幼稚園。小学生も二、三人いたが、たった七人の子どもたち。普段通りと思うが、どこか妙な緊張感がただよう。上演中はそれこそ、食い入るような十四のまなこ。時たま、男性の園長先生（小学校校長も兼任）は率先して笑って反応していたけれど、子どもたちは声にならない反応。まぶたに、脳裏にやきつけるかのように人形をじっと見つめ対峙している。人形を見つめる。

追憶の中で劇壇すぎのこ初代代表、小澤明が、あの小さな美術室で人形をつくっていた、その後ろ姿は、たった一人の子どもの目を見つめていたのではないだろうか。そしてそれは、子どもの時の自分の目だったかも知れない。

小春日和のその日、帰り際、丘の上の駐車場からながめると、古い体育館の向こうに海がかがやいている。秋桜が咲いている。子どもたちが庭で花つまなんかして遊んでいるみたい。どこか遠い記憶の中で見たような光景。思わずこちらから、遠くに呼びかける。すると七人の子どもたちが振り向く。気づいて丘の下の校庭を横切つて駆け寄ってくる。手を振っている。何かさけんでいる。笑っている。だれかがころんだ。すぐに立ち上がって、また走ってくる。だんだん近づいてきて、そしてついに目と目があつた。

ももたろう**班**

澤田 竜人

あけましておめでとうございませう。

この仕事をしていると時間の流れがとても早く、私が入団してから一年と半分も過ぎました。その中で、私が日々の仕事で大切だと思っていることがあります。それは、人との繋がります。

皆さんは、「お陰様です」という言葉を日常生活で使っています

でしょうか。

全てのことは一人で成し遂げられるものではなく、周りの人のお陰で成し遂げることができているという意味を込めての相手への感謝の言葉です。

私がいつも人形劇を仕事として、多くの方々にお届けできているのも、観てくださる方々がいて、一緒に演じる仲間がいて、舞台美術や、脚本、演出、音楽、営業や事務の方、すぎのこの歴史を守ってきてくれた人、地域の方や、企業、団体様：ともしっかりとあります。が、本当に多くの人との繋がりがあつて、私は今この瞬間もまた人形劇がお届けできているのです。そういう風に考えますと、自然と心からの感謝の気持ちと責任が強く湧き上がってきます。

すぎのこはここまで、多く人のお陰でやってきました。そしてこれから、人形劇を通じて、「お



園からの声

このつぎなあに

■めずらこども園（大分県宇佐市）
動物たちのコミカルな動きや、迫力満点な物語に、子どもたちはくぎ付けになっていました。また、風景や生き物の変化から季節の移ろいを感じる事ができ、その世界観が素晴らしいかったです。とても貴重な時間を過ごすことができました。

■松浦保育園（佐賀県伊万里市）
小さい子にもわかりやすい内容で、みんなで楽しむことができました。おじいちゃんがない家をタヌキが訪問する場面に、子どもたちがタヌキの気持ちを思い、心配する言葉、表情がありました。劇に入り込んで心動かされていた様子に、観劇できてよかったと思います。

■ひとみ保育園（長崎県佐世保市）

昨年、観劇させていただいたのですが、子どもたちは前々からとても楽しみにしていました。学童の子も、学校から急いで帰って来て「間にあった」と言って、それはもう楽しみにしていました。乳児クラスの子も最後まで観ることができ、興味深かったのだと思います。

最後に、「思い出に劇団の方と写真を撮ってもらえばよかったな」と話しました。

三枚のおふだ

■入野光保育園（広島県東広島市）
すごかった！

■藤山保育園（山口県宇部市）
はじめに、子どもたちを引きつ

ける導入や「おおきなかぶ」など、乳児から幼児まで全ての年齢に合わせた内容で、その中に笑いがふつと出るような演出があつて、楽しめました。

「三枚のおふだ」も、少し怖い場面もありながら、大人も子どもも引きつけられるような内容でした。

ももたろう

■田子浦幼稚園（静岡県富士市）

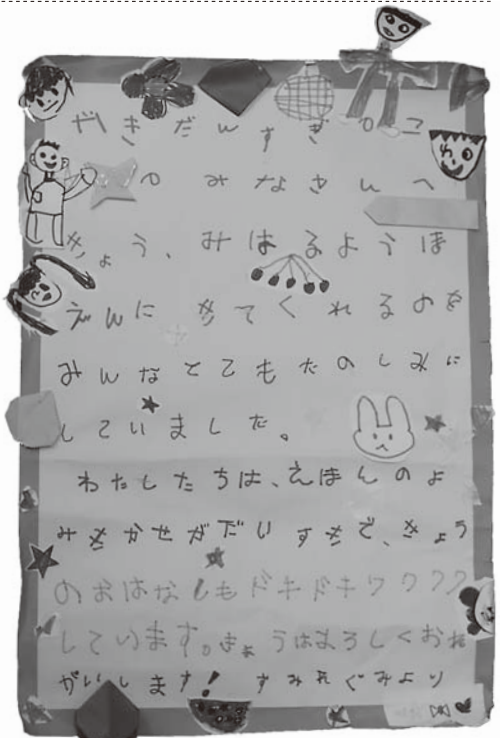
昔話に親しむ場がだんだん減ってきたので、今年は「ももたろう」をじっくり味わえる、とてもよい機会になりました。年少児の素直な歓声や思わず応援する姿が、とてもほほえましかったです。

■御殿場市立東保育園（静岡県御殿場市）

小さいクラスの子も、最後まで楽しく観ることができました。年長児は、いろいろな役を三人でやっていたことを話すと「すごい！」と驚いていました。また、マイクを使用していなくても大きな声、それも、どなっていない、きれいな声に驚き、劇に対しても関心を持ち、いい刺激になったようです。（子どもたちも、これから生活発表会に向けて劇遊びをします）

はだかの王様

■柏台保育所（岩手県八幡平市）
0歳児担当ですが、本物に触れ



▲三春幼稚園より

させたい、という思いで途中から参加させていただきました。泣くかな？ という心配がある中、王様のきらびやかな衣装からはだかになった姿を、じーっとくぎ付けになって見ていたのは驚きでした。歌やお話がスムーズに心に入り、最後まで楽しく観ることができてよかったです。

聞きやすい声やテンポで、子どもたちも気持ちが入り込んで楽しんでいました。セットの早変わりも見えて楽しかったです。

■大槌保育園（岩手県上閉伊郡大槌町）
演者の方々の表現力に引きつけられ、とても楽しい時間を過ごしました。

はだかの王様のお洋服が見える、見えないは、子どもたちの中で最後まで「はだか、だったよね？」という話題で盛り上がりました。人形たちのクオリティの高さにも感動しました。

そらぐさぐさ

■あけぼのこども園（鹿児島県肝属郡肝付町）
毎年楽しみにしています。今年も、子どもたちがとても集中して楽しんでいました。また、来年もよろしく願います。

■おそろこども園（鹿児島県肝属郡肝付町）
様々な役をお二人で次から次に

陰様」といったような日本の文化や精神を伝えていき、さらに自分と他人の個性の違いを理解し合い、創造性と責任のある行動を養う、演育にも力を入れていきます。人形劇を通じて多くの人の笑顔が見られるように、精力的に頑張りたいと思います。

三まいのおふだ班

野見山 大輔

山陰や中国地方山間部に今も残る神楽、昨年その観劇の機会がありました。ホールではなく神社でなので、雰囲気もひとしおでした。

すぎのこの『三まいのおふだ』にも、神楽の世界に通じるものがある気がしています。やまなばの迫力であったり、おふだから登場する龍や灼熱の炎だったり、細部の演出もですが、全体的な世界観が。

お寺の話なのに鳥居があったりします。ちぐはぐな気もありますが、寺と神社をはっきり分けたのは明治以降で、本来共に存在したようです。名残で、現在も鳥居のある寺は存在します。



小坊主を救うのも仏様じゃなくて、便所の神様がおふだを渡しします。いい加減な宗教観とも言えますが、土着の神が異教をも受け入れた度量を感じます。

そっくりのくりのき班

太田 令



昨年は南九州にうかがうことになりました。が、出発日はまさかの台風が上陸するという、初めての事態になりました。そのため、東京から箱根まで下道で行くという、これもまた初めての経験をしました。その後、なんとか高速道路も開通し、九州に無事上陸できました。

今回は出発の時からまさかの事態になりましたが、舞台の上でも様々なトラブルが起こります。こういう時どう対応すればいいかは、経験を積み以外、なかなか身に付いてはいきません。今回の旅も自分の経験として積み重ね、また一つ大きくなって、一步一步成長していきたい、そう思いました。



はだかの王様班

湯浅 香織

明けましておめでとうございます。昨年の秋は東北を巡回していた、度々の大型台風等の影響で道路が泥で覆われていたり、使えない道があったりと自然の脅威を感じました。その一方で、山々の紅葉が多色鮮やかで美しく感動したり、東京にいるとなかなか感じられない自然を、時には大変なこともあるけれど、身近に感じられるのはいいなと思いました。

毎日2回3回と公演を続けてきて、お陰様でだいぶ人形にも慣れてきました。はじめは、こんな大きな人形を操って芝居をするのは不安もありましたが、実力のある班のお二人のお陰で、子どもたち、先生方も笑ってくださったり、ご好評をいただくことが多く、嬉しい限りです。

作品の中で存在しない服を、年長さんはたまに「見える。カッコいい」と言い、年少さんは素直に「見えない」と言う。そんな付度しない子どもたちに「面白かった！また来てね！」と言われるのは嬉しいことです。今年もさらに良いものを届けたい。

繰り広げていかれるのに感心させられました。子どもたちもすっかり見入って、応援したり、楽しそうでした。

もぐもぐ劇場班

下村 あきら

新年、明けましておめでとうございます。昨年「もぐもぐ劇場」は、首都圏を中心に多くの子どもたちと出会うことができました。その中で、以前お邪魔した保育園で準備をしていると、「おじさん！前にも来たよね」と言ってくる子どもがいました。驚くと同時に「来るよう頑張ります」。

たよ！もぐら君だよ」と言うのと、「もぐら君がまた来たよ」と言いながら友達のところへ走って行きました。上演後はペランタに出て、「バイバイ！また、来てね」とみんなで見送ってくれました。この仕事をしていると、子どもたちからたくさんの喜びをもらいます。子どもたちから元気になるエネルギーを注入されます。だから、この仕事を長く続けているのかもしれない。



子どもたちが人形劇を大好きになり、また観たい！という作品をお届けできるように、今年も、精進してまいります。

とても良かったです。■まいとりや保育園（静岡県沼津市）もぐらさんの掛け合いが楽しく、今でも「あっそれ、あっそれ」と真似しています。人形が怖くなくてよかった。

演育ワークショップ開催

埼玉県狭山市・ソプラテイク狭山にて、10月20日及び11月17日に「演育ワークショップ」を開催いたしました。

市内や埼玉近郊から集まった、3歳から小学校高学年の子どもたちが、約20分間のワークショップを体験しました。

今回は、笑ったり泣いたりという、人間の日常生活に欠かせない感情を表現する練習と、シートを使っていろんなものに変身するというゲーム、そして音楽に乗って身体を動かすゲームを行いました。演劇の手法を用いた表現力のワークショップは、一般的にはまだなじみが薄いと思いますが、子ども



私たちは一生懸命に取り組んでくれていました。参加した子どもたちの保護者からは、「このようなワークショップは今までにない」という感想をいただきました。すぎのこでは、コミュニケーション能力や表現力を育むための「演育」を、これからますます展開していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(福島 亜紀)



独立行政法人 日本芸術文化振興会
助成事業



「はだかの王様」全国巡回公演

「はだかの王様」は、独立行政法人日本芸術文化振興会「平成31年度芸術文化振興基金」の助成事業として、2学期は東北地方を巡回いたしました。ご観劇いただいた皆様には、心より感謝申し上げます。

昨年は9月、そして10月と大型の台風が日本を直撃し、豪雨による河川の氾濫、浸水により、多くの方が犠牲となりました。また、自宅や職場が被災し、復興に向けて頑張っている人々が多くいらっしゃいます。本作品が巡回させていただいた東北地方にも、大きな被害が出ました。その中で巡回公



あけましておめでとうござい

す。

今年は、ねずみ年ですね。ねずみが十二支の一番はじめになれたのは、牛の頭に乗る、なんの苦労もなく神様のもとに着いたからだそうですね。まったく、困った生き物です。

今、家の台所にねずみが出てきたら、きつと大騒ぎでしょう。でも、昔話や童話には、ねずみがよく登場します。洋の東西を問わず、人のいるところには必ずいる身近な生き物だったのでしょうか。

2学期 中国地方
3学期 四国地方
2022年

1学期 首都圏
2学期 首都圏・沖縄地方
3学期 首都圏・九州地方

(福島 亜紀)



ちよろちよと出てきては、ちよつぱり悪さをしていく迷惑な生き物。でもよくよく見ると、かわい顔をしています。

昔話のなかでは、やせねずみが相撲をとっていれば、お餅をついてもらい、壁をガリガリかじるねずみこそ、この世でいちばん強いとほめたたえられたりもします。

ハーメルンの町のように、よつぱど増えて人の暮らしをおびやかすことがなければ、大目に見られていたのでしょうか。

そして、人は、自分より弱いもの、小さなものと共に生きたいと願う、優しい、優しい生き物なのではないでしょうか。

今年はどんなねずみたちと出会うのでしょうか。試みに作りたて



のおむすびでも、ころがしてみましようか。

(榎本 千里)

当財団には、群馬県に日本小型自動車振興会(現財団法人JKA)の補助により建設された「すぎのこ山荘」と日本宝くじ協会の助成により整備された「わんぱく村」からなる「すぎのこ婦恋研修センター」があります。

この施設は緑豊かな自然に恵まれ、大変静かな環境に立地し、音楽や演劇等の芸術文化活動や公益活動にお貸ししています。

合宿や研修等で会場をお探しの方は、ぜひご検討ください。(利用目的は原則自由ですが、冠婚葬祭やそれに類する事、営利目的の活動には使用できません)

近くには、海拔1240m、周囲2kmに及ぶバラキ湖をはじめ、近隣に日帰り温泉施設「湖畔の湯」やバラキ高原婦恋スキー場等が点在し、年間を通じてレジャーや野外活動の拠点としてご利用いただける他、敷地内にはテントサイト(シャワー室・トイレ完備の専用洗面棟併設)や雨天でもバーベキューが楽しめる集会棟、アスレチック広場等が整備され、日本キャンプ協会の優良キャンプ場として認定されています。

婦恋研修センターに関するお問い合わせ

Email: support@suginoko.org

または03-3984-2396

(事務局)



婦恋研修センター

上田順一先生を
偲んで

浅野茜子

美術家の上田順一先生が昨年10月26日にご逝去されました。享年82歳でした。

私が先生と初めてお仕事をさせていただいたのは、今から十年ほど前。人形劇「どろぼうのなみだ」の影絵美術でお世話になりました。この人形劇は私が初めて脚本を書き、初年度は自分自身が俳優として上演に参加した作品でした。当時の私は、「24歳の全てをこの作品にかけよう！」と意気込んでいました。

「人形劇と幻想的な影絵のコラボレーションにしたいんです！子どもたちの心に残る、あったかい舞台を創りたいんです！」

できあがってきた先生の影絵をスクリーンに映した時、想像以上の美しさに感動し、興奮したのをよく覚えています。「わあ〜」「すてきです！」と口々に歓声をあげる私たち俳優に、上田先生はニコニコしながら、操作の仕方を教えてくださりました。

巡回公演が始まると、先生の影絵は全国の子どもの心をつかんでいきました。真っ暗な中でゆっくり浮かび上がる影絵。子どもたちの息をのむような空気が舞台まで伝わってくるようでした。上演後は「影絵って初めて見た！すごきれいだった！」と言う子どもたちのキラキラした目に必ず会えました。

また、すぎのこ教材の影絵紙芝居DVDを制作するにあたっては、

12作品の日本の民話の影絵美術を先生に製作していただきました。影絵ができるまで、先生のアトリエに通い、先生のお手伝いをしながら影絵の作り方を教えていただき、お話をうかがえたことは、私の大きな財産となりました。

先生と最後にお会いしたのは、一昨年のいけいけ人形劇まつりでした。先生はおでこに冷却シートを貼り、受付に座って来場する子どもたちを迎えていらっしゃいました。体調が良くななくても、仕事が好きで先生。ご挨拶に行くと、「浅野さん、また一緒に仕事したいねえ」とおっしゃってくださいました。

先生の影絵と人形劇と子どもたちに傾けた情熱と優しさを、私たちは忘れません。すぎのこは、これからも情熱と優しさを持って、子どもたちに人形劇を届けていきます。先生、どうか天国から、私たちの人形劇を見守ってください。



2010年「どろぼうのなみだ」上演時、上田先生と